施設報告

広島アステール・プラザ中ホールの照明†

田村 紀彦*

図1 全 景

1. 施設概要

当施設は、市民文化創造センター（現代ホール）、中区民文化センター（古典ホール）、国際青年会館（宿泊施設）、中区図書館（市立図書館）の4施設を併せ持った複合文化施設（愛称「アステール・プラザ」）として計画された。

このうち、市民文化創造センターは客席数1204席を持つオペラ、バレエ、ミュージカル等を主演目とする現代劇場（以下大ホールと言う）であり、中区民文化センターは客席数613席の能、狂言、歌舞伎、日本舞踊等を主演目とした古典劇場（以下中ホールと言う）として計画されている。

中でも、中ホールは移動式能舞台を持つ劇場である。能舞台全体を（橋掛り及び脇正面の客席を含み）スライド式移動舞台とし、通常の本舞台がセットされている状態では能舞台は後方に設けた収納庫に格納されており、能舞台セット時は本舞台を迫り機構で奈落に沈め、そのあとに能舞台を収納庫より客席前面まで引出し、本格的な能舞台を構築出来るようにしている。（図2・図3）

† Lighting at the hall for Japanese performance theater Aster Plaza Hiroshima

* (株)山下設計大阪支社
〒550 大阪市西区北堀江1-3-3
紹介者 専門会員 中山 晴夫

Norihiko Tamura

2. 中ホールの舞台照明

中ホールの舞台照明は、舞台上部にボーダーライト2列、サスペンションライト3列、アッパーホリゾントライト（中ホリ共）2列、及び客席側よりフロントサイドスポットライト上下2段、シーリングライト1段、バルコニースポットライト14基、ピンスポットライト2基を設け、多目的演目にも充分に対応出来る内容としている。

調光操作システムは、コンピュータ制御によるメモリー

図2 収納庫に格納された能舞台（中ホール）

図3 セットされた能舞台（中ホール）

図 4 能舞台照明器具配置図

図 5 能舞台水平面照度実測値
(単位 lx)

() 内は FL + 1.5 m の鉛直面照度を示す。

図 6 照度分布図
(実測値, 単位 lx)

機能を有し、制御回路数 239、メモリーシーン 300、レベルフェーダー 100 本 1 段の、最先端技術を駆使したデジタル操作システムとしている。また、大・中ホール共に OCR（光学式文字読取オフライン仕込）システム装置を導入し、メモリー関連データの書込記憶操作や、そのデータの調光操作卓への転送等のスピード化を計り、オペレータの簡便さを行っている。

3. 能舞台の照明

能舞台使用時は、本舞台上部の照明負荷は殆ど使用しないので、第 1 サスペンションライトの回路との切替えを行い、能舞台全体の調光回路（6 回路）として利用している。また、脇正面は客席と同じエリアとなるので、正面客席負荷回路との連動としている。

舞台の光源としては、熱線カット型ハロゲンランプと白熱ランプとの組合せで行っている。

能舞台を歴史に求めると、初期は屋外に設けられ、露天の中で自然光により演能されていた。観客も同じ自然のあかりの中で観能していた。次に、屋根を持つ能舞台が出現すると、観客のために白洲や水面が自然光を取り入れその

反射光として補佐し、舞台のあかりとした。

しかし、屋内に舞台が組み込まれて来てからは、様々な能楽堂であかりに対する考えが、理想的な照度、望ましい明度として考察され作られて来てはいるが、今だ確立されたものは無いのが現状と思われる。当ホールの能舞台もその中の 1 例として、橋掛りからの出入り部での演技に対し、また正中でのシテの演技の流れに対しその重きをおき、フラットライトとして全体のあかりを作っている。

ここに、使用した照明器具の種類及び配置、実測した水平面（床上）照度、床上 1.5 M での鉛直面照度を表し、一つの施工例としたい。（図 5・図 6）

4. あとがき

竣工後 1 年を経て、当ホールの利用状態を見聴きし、プロの演者の方々の評判や市民サークルの皆さんの利用度を思うに、大変にご好評を戴いている。今後とも、益々この舞台が広く利用されることを望むと共に、この 1 例が、今後計画される能舞台の参考となれば幸いである。

（受付 1991 年 11 月 14 日）